

# 令和3年度 「志教育」実践報告

宮城県仙台向山高等学校

「進路年間計画」を活用した進路指導や学習指導を通して、的確な進路指導を実践していく。生徒一人ひとりの適性と学力状況を把握するとともに、学力検討会および進路検討会を開催し、生徒の学力状況を共有化することでより一層の学力向上を図る。

## □ 成果

本校では1年生では「自分と出会う」、2年生では「学問と出会う」、3年生では「社会と出会い自分を広げる」というテーマの下、生徒一人一人の進路志望の達成に向けたキャリア教育を推進している。各学年1年間の進路指導の際には「進路年間計画」を活用してより効果的な進路指導ができるようになっている。

具体的な取り組みの例として学力検討会をそれぞれの学年で年に4回開催しており、模擬試験の推移を中心に、生徒の学力把握に努めている。また、3年生の進路検討会では模擬試験の結果を追うだけでなく生徒の適性も考え、定員が拡大している学校推薦・総合型選抜に向いている生徒がいないか、3年間の成績などを参考に検討している。多様な入試制度が拡大していく中、一人ひとりの生徒の進路先を考える上で、重要な活動となっている。

## □ 課題

「進路年間計画」については、その活用法について、学年の進路担当者を中心にその活用を図ってきた。また、内容についてはすでに来年度は3年目となる新入試対策も含め、進路に係る行事や活動の意義などを生徒に分かりやすく理解してもらえるように改善を図ってきたい。

総合的な探究の時間を活用した「向陵 Plearning」を適切に行う。そのことで、生徒一人ひとりの進路志望の達成に向けたキャリア教育を推進する。その際、特に各学年や他分掌との連携を特に重視する。

## □ 成果

本校のキャリア教育の柱のひとつとして、総合的な探究の時間に進路支援プログラム「向陵 Plearning」を実施した。1年生では「ビブリオバトル」や「ブックトーク」活動を中心に、読書を通して分野への関心を深めると同時に、他者の紹介内容に触れることで、社会への興味関心を広げる機会とした。2年生の「アカデミック・インターンシップ」では新型コロナウイルスの影響で今年度も訪問が叶わない大学もあったが、昨年度のオンライン実施を活かし、遠方の大学ともコンタクトをとり、大学での学びに関して講義をうけることができた。その後各グループが内容をまとめ、発表後に学年代表を数グループ選出して11月の向陵オープンセミナーでは全校生徒に発表を行った。3年生は「サクセスタイム」と呼ばれる

個人の探究活動を通して、卒業後の学びを意識する活動を行った。それぞれの活動の「振り返り」も重視して、今できることを自覚できるように生徒へ働きかけた。

□ 課題

現在の向陵 plearning は線で繋がっていない部分もあり、当初は系統立てて計画されたものが、様々な取り組みが追加されたり、廃止される中で、失われている点がある。今一度、各学年の計画を見直し、学びが系統立てて計画され、生徒がなぜこの活動を行っていて、どのような力がつくのかを意識した活動が計画できるようにしなければならない。

各学年を通して、上位層の育成に努める。3年生においては、難関大学へ合格できる学力を獲得させるよう尽力する。その際、アクティブラーニング型の双方向の形での授業などを実践することによって、生徒の考える力を養い、また、個別の生徒に対して、添削指導を行うなど指導の充実を図る。

□ 成果

今年度も対話型の授業の実施は難しい場面があったが、iPad やプロジェクター黒板の配置などの ICT 機器の整備のおかげで。生徒の発表力、分析力、論理力が身につくように各教科で工夫した。

また、10月以降は各教科において、3年生の希望者へ個別添削指導を実施し、上位層の育成を図った。

□ 課題

ICT 機器を活用した授業は今後もますます重要視され、小学校・中学校ですでに一人一台配付されていた世代が入学してくる。ただ活用するのではなく、実りの多い授業になるように研修会等を通じて、授業の技量を上げていく必要があると思われる。

個別指導についても、各大学の傾向を分析し、一部の教員頼みになるのではなく、引き継ぎができるようにしていきたい。